

平成 24 年度
筑波大学基金 活動報告及び実績報告

国立大学法人筑波大学
連携・渉外室

24年度活動報告

平成24年度につきましても、募金活動を継続し、卒業生及び地域企業や諸団体とのネットワークの拡充強化を図るとともに「筑波大学校友会」のサイトを充実・活用し、安定的かつ恒常的な募金体制を確立することに努めました。

■学内における募金活動

○安定的かつ恒常的な募金体制を構築するため、給与控除による寄附者の増大を図ることとし、ワンコインキャンペーンを実施しました。事務室職員へは申込書を直接手渡しにより寄附依頼をしました。

ワンコインキャンペーンにより、教職員約4,000人のうち、4か月間で給与控除参加者が、103人から254人に増加しました。

○基金制度を日頃から意識させるため、三角ポップを作成し、各事務室へ設置しました。また、新年度からは、学内の食堂にも設置を予定しております。

■筑波大学基金パンフレットの配布状況

○筑波大学基金パンフレットの刷新により、全教職員へ新しい基金パンフレットを配布し、基金の周知と寄附を呼びかけました。

○紫峰会、茗溪会を通じて「在学生の保護者」、「卒業生」に基金パンフレットを送付し、基金の周知と寄附を呼びかけました。

○卒業生ネットワーク登録者（約8,000人）に対し、基金パンフレットを送付し、開学40周年の案内を兼ねて、基金の周知と寄附を呼びかけました。

○ホームカミングデーを開催して卒後20年の卒業生との交流を図り、茗溪・筑波グランドフェスティバルにおいては、卒業生、在学生及び教職員との世代を超えた交流を図りました。また、いずれの会場においても基金パンフレットの配布を行い、基金の周知と寄附を呼びかけました。

○学長が講演した茨城新聞主催の合同政経懇話会において、出席者に基金パンフレットを配布しました。また、附属学校を含む入学式、筑波大学成果発表会等での基金パンフレットの配付を行いました。

■古本による寄附

○**「古本による寄附」を平成23年度末から始め、教職員及び学生に対して周知を図りました。**また、筑波研究学園都市にある文部科学省関係機関（8機関）へ訪問し、ポスター掲示と職員へのパンフレット配布を依頼しました。今後は、学園都市内の研究所等へも

配布を予定しています。

○年度末全教職員へ古本募金パンフレットを配布しました。また、附属学校を含む入学式等で古本募金パンフレットの配布を行いました。

○基金パンフレットと古本募金パンフレットを合冊とし、パンフレット配布活動の効率化を図りました。

■地域や卒業生との関係構築

○茨城県内のロータリークラブ、商工会議所及び商工会を訪問し、本学との情報交換の充実に努めました。(計63件)

○「学長を囲む会」のメンバー拡大に努め、研究成果等の大学情報を発信し、地域との交流を深めました。(計3回)

■筑波大学出身経営者の会（仮称）の立上

経済界で活躍されている **本学出身の企業経営者に参加を呼びかけ「筑波大学出身経営者の会（仮称）」を立上げ**、24年度は、総会を2回（5月と10月）開催しました。

当会の設立意義として、下記の3点を掲げています。

- (1) 会員同士が連携・交流すること
- (2) 会員から大学及び学生に対して貢献・支援・連携すること
- (3) 大学の成果・情報を会員に提供すること

経済界で活躍されている卒業生・修了生に対し、本学との交流を深めていただくとともに、会員相互の交流、情報交換の場として活用いただくことにより、本学と会員とが共に発展できるような有益なネットワーク構築を目指しています。

■筑波大学校友会サイトの活用

○ **筑波大学校友会サイトを開設し、7月からはSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service））サイトを開設しました。**

このSNSサイトは、現在2,300人余りの登録者を数えていますが、活性化を図るため次の取組みを実施しています。

- ・学類同窓会に対し、SNSを利用した同窓会会員の管理について検討を依頼
- ・在学生の加入者増を図るため、筑波大学新聞、STUDENTS及びTsukuba COMMUNICATIONSへSNSへの加入案内の記事掲載を行うとともに、全ての学類長（専門学群長を含む。）を訪問し、SNSの利用拡大について依頼

○校友会サイトトップページへ「筑波大学基金」へのリンク用バナーを設置し、基金への寄附案内を実施しました。

○スマートフォンユーザーの急増に伴い、筑波大学校友会 SNS サイトの利便性を確保するため、ソフトのバージョンアップを進めています。

■筑波大学基金からの支援状況

○前年度の寄附受入れ金額を基礎とし、その 50%相当額を支援に充てることとし、宿舍祭 (30 万円)、つくばスカラシップ (670 万円)、学園祭 (100 万円) 及び附属学校 (100 万円)、への支援を行いました。

○つくば市から、東日本大震災の被災学生への義援金 500 万円を受領し、学生部を通じて被災学生への支援を行いました。

被災状況	支給額	学生数	計
家屋の全壊	20 万円	4 名	80 万円
家屋の半壊	15 万円	20 名	300 万円
家屋の一部損壊 (被害額 100 万円以上)	15 万円	4 名	60 万円
家屋の一部損壊 (被害額 50 万～100 万円未満)	10 万円	2 名	20 万円
原発避難	20 万円	2 名	40 万円
合 計		32 名	500 万円

○茗溪会から、ホームカミングデー及び茗溪・筑波グランドフェスティバル開催に伴う寄附金 (100 万円) を受け、当該行事への支援を行いました。

○寄附金 (100 万円) を受け、そのうち 20 万円を公開講座関連経費として支援を行いました。

○数学研究への寄附 (9 万円) を受け、数理物質科学研究科学生の研究発表参加補助経費として支援を行いました。

○工学システム学類の学生支援への寄附 (200 万円) を受け、同学類での奨学金制度を定め、今後 10 年間の支援を実施することとなりました。

平成24年度実績報告

■平成24年度実績

平成24年4月1日～平成25年3月31日

47,390,745円 1,882件

区 分	寄附額	単位：円
		件 数
現金による寄附	24,453,257	1,823件
うち 法人	10,687,900	26件
うち 個人	13,765,357	1,797件
特定 基金 筑波大学スポーツアソシエーション（TSA）事業	256,325	33件
附属病院支援事業（病院寄附金）	12,560,695	20件
財物による寄附	10,120,468	6件
合計	47,390,745	1,882件

○平成24年度財物による寄附内訳

寄附者	評価額	単位：円
		内 容
筑波大学附属駒場中・高等学校後援会	1,986,000	プールろ過装置他
法人	7,219,918	生物顕微鏡、乾電池他
個人	914,550	四頭筋訓練機他
合計	10,120,468	

○平成24年度運用益内訳

		単位：円
譲渡性預金利息	213,972	100,000,000円（24/4/18～25/4/8の355日間預
普通預金利息	8,133	
合計	222,105	

■教職員向け給与控除（天引き）による寄附残高

教員 104人

事務職員 151人 寄附額 計 3,195,404円

■クレジットカード決済による継続寄附残高

3月末現在 5件 寄附額 毎月8,668円

■古本募金（平成24年2月1日開始）

3月末現在 延べ181件 寄附額 計517,597円

■卒業生の寄附参加率 0.87%

871人（延べ人数）
約100,000人（筑波大学の卒業生・修了生概算総数）

筑波大学卒業生のうち卒業生ネットワークへ登録があり所在把握ができていない卒業生数は約10,000名です。これは卒業生・修了生全体の1/10に過ぎないので、大学からの情報が卒業生全体に伝わり難い状況です。このため卒業生の寄附参加率が低いものと思われるので、今後は卒業生ネットワークの拡充が重要になってきます。

■基金事業の活動経費

基金活動に係る印刷費、郵電費、人件費等は大学予算で賄っており、寄附金からの支出はありません。

また、現金による平均寄附金額は13,413円（個人：7,660円）でした。

これに対して基金活動にかかった費用は、人件費を除くと、振込手数料、パンフレットやお礼状の印刷費、記念品等で、寄附1件当たり1,807円となっています。

■基金設立時からの累積寄附額

平成22年4月1日～平成25年3月31日

寄附総額 225,954,204円 5,389件（延べ寄附件数）

収 入		支 出（24年度）	
区 分	合 計	区 分	合 計
現金による寄附（特定基金含む）	159,303,459	宿舎際	300,000
財物による寄附（評価額）	44,533,618	つくばスカラシップ	6,700,000
震災義援金	22,117,127	学園祭	1,000,000
		附属学校支援	1,000,000
		被災学生支援	5,000,000
		ホームカミングデー及びMTGFへの支援	1,000,000
		公開講座支援	200,000
		数学研究への支援	90,000
		工学システム学類の学生支援	2,000,000
合計	225,954,204	合計	17,290,000
		差引収支額	208,664,204
		うち現金収支額	164,130,586

平成 24 年度総括

我が国の経済は、新政権による経済対策により明るい兆しが見えてきておりますが、まだまだ予断を許さない厳しい状況が続いております。平成 24 年度の寄附募金状況においても決して順調であるとは言えませんでした。しかし、このような経済環境の中、多くの方々から温かいご支援をいただきました。

寄附者のニーズを捉え、寄附の多様化としてスタートしました「古本によるご寄附 FUTURESHP with BOOK DONATION」におきましても 1 年が経過し、着実に浸透してきております。また、関東大学対抗戦での優勝及び全国大学選手権での国立大学初の準優勝を果たしたラグビー部に対し、本学第一期生を中心とした卒業生有志による「筑波大学ラグビー部祝賀会」が開かれ、参加者から当日寄せられた寄附金が筑波大学基金にも贈呈されました。このような本学と卒業生とのネットワークから生まれるご寄附等も含め、様々な施策が一つひとつ徐々にではありますが、寄附者の拡大へと繋がってきていると考えています。

本学は今年で開学 40 年目という節目の年に当たります。また、明治 5 年の師範学校発足以来 101 年目を迎えています。今まで以上に大学の使命である教育研究・人材の育成に努め、本学のさらなる発展に努めてまいり所存でございます。この開学 40+101 周年を契機に、引き続き募金活動の基盤となる卒業生や地域企業と大学のネットワーク構築に力を入れてまいります。